



# 大砂土小だより

学校教育目標「自ら学び、考えて行動する児童の育成」  
～ 認め合い、学び合い、共に育つ ～

<目指す児童像>

かしこい子(知) 明るい子(徳) たくましい子(体)

コミュニケーションを図ることにより、

互いを認め、高め合い、ともに伸びる子

TEL 663-7005

FAX 663-9886

大砂土小学校 ホームページアドレス <http://osato-e.saitama-city.ed.jp/>

メールアドレス osato-e@saitama-city.ed.jp

## 「時を守り 場を清め 礼を正す」 校長 書上 敦志

前回の学校だよりで、「時を守り 場を清め 礼を正す」という言葉について触れました。この言葉は、国民教育の父と呼ばれた教育学者である森信三氏の言葉です。学校教育で大切な教えとして不易なものです。2学期の始業式で子どもたちに次のように話しました。

2学期に頑張ってもらいたい、3つのことです。それは、「時を守り、場を清め、礼を正す」ということです。わかりやすく言うと、「時間を守ること」「身の周りをきれいにすること」「返事やあいさつ、ありがとう、ごめんなさいが言えること」…私たちはいろいろな人と協力して生きています。自分のことを大切にすることと同じくらい相手のことを思うことが大切です。大人になれば自然と身に付くものではありません。大人になったときに困らないように子どものうちから少しずつ身に付けておくべきものです。…

「時を守る」とは、時間を守ること。子どもたちの生活も、友だちや先生との互いの時間を共有しています。授業開始時刻に終了時刻、登校班や校外学習の集合時刻、友だちとの待ち合わせ時刻など。これらをしっかりと守るということは、相手を尊重するとともに、自分の信用を積み重ねることにつながります。授業の準備を整えてチャイムがなる少し前に席に着く子が増えています。周りの人の時間も大切にしたいものです。

「場を清める」とは、身の周りを整えること。身体を鍛えるとともに心を整え磨くことにつながります。身の周りをきれいにしているとほんの少しの変化に気づける人になります。校長室前廊下の雑巾がけをトレーニングととらえ、まるでスポーツを楽しむかのように取り組んでいる6年生がいます。その物の見方や考え方、意志の強さに驚かされます。

「礼を正す」とは、礼儀を尽くすこと。あいさつ「おはようございます」「ってきます」、返事「はい」、感謝の心「ありがとう」、謙虚さ「ごめんなさい」など。これらをさいたま市では「心を潤す4つの言葉」として啓発しています。廊下ですれ違う時に、1年生でも、きちんと止まって黙礼をしてくれる子がいます。笑顔で目礼してくれる子もいます。大人である私の方が教えられます。ご家庭での教えがお子様の姿となって表れています。

森氏は、「しつけの三原則」についても述べています。①朝のあいさつをする子に②「はい」とはっきり返事のできる子に③席を立ったら必ず椅子を入れ履物を脱いだら必ず揃える子に。子どもは、親や教師の「いう通り」にはならないが、「する通り」になるといわれます。まずは、教師や親、大人が手本を見せること。上級生が下級生に手本を見せること。環境が人を育てます。

先日、6年生の先生方が、「修学旅行でホテル内のスリッパを揃えさせたいですね。」と話していました。大砂土っ子最上級生としての誇りと自覚をもっている6年生なら、きっと心も履物も揃うと信じています。来月号でご報告できるのを楽しみに行ってまいります。



【学校教育ビジョン：「夢いっぱい 笑顔いっぱい ひとみ輝く大砂土っ子」の育成】